

■自動セット情報

出力情報	自動セット情報
検証情報	複合科目セット情報
自動セット情報	相手科目自動セット区分 なし
	相手科目セット基準割合 %

項目	内容																												
相手科目 自動セット区分	複合仕訳を総勘定元帳に印刷する時に、相手科目に「複合」と表示するか、または、取引の主要科目を相手科目として表示するかを指定します。 ケース1では、売上の元帳を印刷した場合、相手科目が「複合」となりますが、取引の主勘定である「現金」とすることで、取引を明確化できます。 (ケース1) 現金 / 複 合18,500 売上値引 / 複 合 101,500 複 合 / 売 上 1020,000 総勘定元帳へ 総勘定元帳 511 売 上 1 <table><tr><th>伝票NO</th><th>23年 月 日</th><th>相 手 科 目</th><th>摘 要</th><th>借 方</th><th>貸 方</th><th>差引金額</th></tr><tr><td>100</td><td>8. 5</td><td>現 金</td><td>本日現金売上</td><td>10</td><td></td><td>54,870</td></tr><tr><td>103</td><td>8. 6</td><td>複 合</td><td>現金売上</td><td>10</td><td></td><td>86,500</td></tr><tr><td colspan="4">複 合</td><td></td><td>20,000</td><td></td></tr></table> 現金20,000 ■なし・・・・・・・・・・複合科目セットは行いません。 ■基準割合を超える科目・・・・複合科目セットを複合割合で行います。 (例 1) 相手科目セット基準割合を 10%で登録してある場合、「売上値引」は、全体金額 (20,000) に対する割合を計算すると 7.5%になり、登録した 10%未満となるために無視され、「売上」の相手科目は「現金」として出力されます。 (例 2) 「売上値引」が 3,000 円となったケースでは、10%以上となるので「売上」の相手科目は「複合」のまま出力されます。 ■基準割合を超える先頭科目・・複合科目セットを複合割合で行います。 割合を満たす相手科目が複数存在する場合、 先頭の科目を相手科目として、出力します。 (例) 複合取引の先頭科目が「現金」のため、2 仕訳目の科目「売上値引」は無視され、先頭科目の「現金」が印刷されます。 ■最大金額科目・・・・・・・・・・複合科目セットを金額の大きい方の科目で行います。 (例) 複合取引の金額の大きい方の科目が、「現金」のため、2 仕訳目の科目「売上値引」は無視され、「売上」の相手科目は「現金」として出力されます。	伝票NO	23年 月 日	相 手 科 目	摘 要	借 方	貸 方	差引金額	100	8. 5	現 金	本日現金売上	10		54,870	103	8. 6	複 合	現金売上	10		86,500	複 合					20,000	
伝票NO	23年 月 日	相 手 科 目	摘 要	借 方	貸 方	差引金額																							
100	8. 5	現 金	本日現金売上	10		54,870																							
103	8. 6	複 合	現金売上	10		86,500																							
複 合					20,000																								
相手科目 セット基準割合	相手科目自動セット区分で「基準割合を超える科目」、「基準割合を超える先頭科目」を選択した場合に、割合を設定します。 0～100%の範囲で入力します。																												